

■橋樑 ジャーナリスト、中国研究者。中国解放運動に献身、満州問題論評などで、<敗戦>まで、特異な位置。

たちばなしらき

明治14年政変1881 = 大分県臼杵町(臼杵市)で旧藩士の子に生まれる。

帝国憲法発布1889 = 8歳：

帝国議会始・1890 = 9歳：

日清戦争始・1894 = 13歳： 杉浦重剛の日本中学へ入学したが、病気で帰郷、
愛知県視学だった父のもとで愛知二中に入るも、退校処分を受け、
名古屋一中に転じて、再び退校処分、飛騨の高山中学校に移って、

Bushidou・・1899 = 18歳：

田中正造直訴1901 = 20歳：ようやく卒業、第五高等学校に入学、後藤文夫と同級で秀才ぶりを発揮したが、
教科書疑獄・1902 = 21歳：「賄征伐」の責を負って退学、東京に出て独学する。

日露戦争終・1905 = 24歳：札幌の{北海タイムス}に入社。この年、東京で孫文が{中国革命同盟会}を結成、
満鉄発足・・1906 = 25歳：大連に渡って{遼東新報}の記者となり、

アサヒ 創刊・1908 = 27歳：

大逆事件判決1911 = 30歳：中国の<辛亥革命>が勃発して、
明治天皇没・1912 = 31歳：中華民国が成立すると、
大正政変・・1913 = 32歳：北京に移住して{華公論}の主筆となるとともに、独自の中国研究を開始、
中国全土に及ぶ踏査と中国古典の研究に取り組む。

ロシア革命・1917 = 36歳：
本格政党内閣1918 = 37歳：{京津日日新聞}の主筆・{済南日報}の主幹となる。<シベリア出兵>の従軍記者を務めた際、酒量を過ぎ、
半身不随となって帰還した。以後、養生のためしばしば日本に帰国、
八咫鏡条約・1919 = 38歳：中国の<五四運動>が始まる。

原敬首相暗殺1921 = 40歳：この間、内藤湖南らを批判、バートランド=ラッセルの中国観に好意を示す。
関東大震災・1923 = 42歳：旅順に転居して{月刊支那研究}を創刊するとともに、{満蒙}{満鉄調査時報}{新天地}などの雑誌上で、国民革命の始まった中国について評論活動を展開、
治安維持法・1925 = 44歳：満鉄囑託となり、
円本時代始・1926 = 45歳：この間、マルキシズムの限界を気づくに至る。

世界恐慌・・1929 = 48歳：{改造}に「中国共産党の理論及び方略」を書いて、日本の論壇に初めて登場、

満州事変・・1931 = 50歳：*{満洲評論}を創刊直後に、<満洲事変>が勃発すると、中国国民革命に期待するそれまでの立場を放棄、関東軍の行動を支持する有名な"方向転換"を行ない、中国問題の解決策として"東洋の共同体理論"を日本の論壇に開陳するなどし、その中軸として影響力を振るって行く。

芥川直木賞始1935 = 54歳：
二二六事件・1936 = 55歳：主著「支那社会研究」「支那思想研究」、
日中戦争始・1937 = 56歳：{満洲評論}に「支那事変収束の諸条件」を書き、
健保+総動員1938 = 57歳：*風見章を介して、自らの思想を「近衛対支三原則」に反映、
左遷された石原莞爾らを中心に結成された満州在野の政治団体{協和会}を介して、満州国の官僚化・帝国主義的搾取に反対、
日米開戦・・1941 = 60歳：{中央公論}に「事変収束の見通し」発表。<合作社事件>で可愛がっていた編集部員佐藤大四郎が検挙され、
・・・・・1942 = 61歳：<満鉄調査部赤化事件>となって、部員同人の検挙投獄が相次ぎ、遂には佐藤らが獄死するに至り、責をとって満鉄囑託を辞任、東京に戻って出直し、
創価学会検挙1943 = 62歳：再び中国に渡って、農村を回りながら、中国民衆への愛情を込めた「支那建設論」、
年金+総武装1944 = 63歳：「北支那郷土建設私議」などを書くなどしながら、{満洲評論}を発行し続けたが、
敗戦・・・・・1945 = 64歳：*ついに廃刊となり、ハルビンで<敗戦>の報を聞いて南下、奉天で病を得、没した。